

障害者生活支援シンポジウム

社会福祉法人 明光会 障害者生活支援シンポジウム実行委員会

〒421-1211 静岡県静岡市葵区慈悲尾 1 8 0

助成事業の概要

障害者が自分らしく暮らしたいところで生活をしていくために、障害者総合支援法による福祉サービスが随分充実してきた。一昨年 4 月からは計画相談支援が始まり、「サービス等利用計画」が作成されるなど生活のためのプランニングができるようになった。しかし「公助」で出来る範囲は限られている。どうしても地域で暮らす普通の人の関わり、「共助」が必要になる。また「自助」も必要だろう。今までも生活支援を取り上げたシンポジウムは多くあったが、いずれもいわゆる福祉職同士の意見交換だったように思う。

今回はあえて福祉職ではない地域で生活している住民との意見交換を通じて、普通の人や障害者の地域生活をどう見ているのか、地域生活にどう関わろうとしているのか、民生委員や町内会はどのような活動をしているのかを明らかにしていきたい。これに先立つ第 1 部では、相談支援センターの窓口で寄せられる相談事例をもとに、地域で生活している障害者がいったい何に困っているのか、どんな相談に来ているのかを紹介し、第 2 部の意見交換のヒントとしたい。平成 27 年 1 月 31 日に開催。

事業の成果

第 2 部のパネリストとして参加していただいた静岡市葵区一番町の住民 2 名の方は、町内会で立ち上げた福祉委員会のメンバーで高齢者の見守り活動を実践している方々だが、障害者との関

わりはほとんどなく、どういうことをしたらいいのかと思っていたとのことだった。第 1 部の報告を聞いていただいた後の感想をお聞きしたところ、「高齢者も障害者も困っていることは同じなんだ」、「今やっていることがそのまま障害者の生活の助けになるのだ」との答えが返ってきた。このことに気づいていただけたことがこの事業の一番の成果ではなかっただろうか。早速福祉委員会のメンバーにこのシンポジウムの模様を報告して、障害者の支援について取り組んでみたいとお話があったことも大きなことである。この町内会から他の町内への広がるように働きかけていきたい。そうしなければこの事業の成果も半減してしまう。

会場に足を運んでいただいた参加者のなかに計画相談支援事業所の方も何人かみえていた。

相談者の意向をくみ取ってより良い支援計画を立てるためには、シンポジウムで紹介した地域支援活動「共助」=インフォーマルサービスがどうしても必要である。実際に地域住民の活動について見聞きできたことは、計画作成の大きな力になることと思っている。

また当事者、家族の皆さんには「地域での見守りができること」、「誰もが同じようなことで困っているのだということ」、「困ったらまず声をあげること」ということをわかってもらえたのではないかと考えている。

相談支援や障害福祉サービス事業者、地域住民がお互いに顔の見える人同士になることで、連携が進むし、そうなることが今後の障害者支援については不可欠のものであることに気づいていただ

けたのではないか。「公助」の担い手である相談支援事業者、障害福祉サービス事業者には、より積極的に地域住民に働きかけを行い、「共助」の担い手を増やしていくことが求められる。静岡市内各町内に一番町と同じような取り組みができるようになった時、この事業の成果があったと認められるだろう。

■ 成果の広報・公表

シンポジウム当日の様子は、翌日（平成 27 年 2 月 1 日）の静岡新聞朝刊に掲載されたので広く市民の目にふれたものと思う。「新聞に載っていたね」と様々な連携先の方々から声を掛けられた。

また当日の報告資料、一番町町内会福祉委員会の取り組み紹介資料、ボランティア団体の取り組み紹介資料と、当日のパネルディスカッションの様態と写真を掲載した報告書冊子を作成予定である。

この冊子を当日参加された障害福祉サービス事業者、相談支援事業者の他、市内特別支援学校や高等専修学校、行政機関、障害者を雇用している企業等に配布し、障害者の生活相談や支援に活用していただくようにしたいと思っている。また法人のホームページや、実行委員会の主体となった就労移行支援事業所、委託相談支援事業所、障害者就業・生活支援センターの広報誌にも掲載し、登録者や利用者への広報を行っていく予定である。

■ 今後の展開

事業の成果のところでも述べたが、今まで障害者との関わりがほとんどなかった一番町福祉委員会では、次回の会合の席でシンポジウムの報告を行う予定で、今後の活動で障害者の支援について

積極的に取り組んでいただくことになると思われる。またパネリストの掛川さんは民生委員も務められているので、他地域の民生委員の方々にも働きかけていただくことができている。とりあえず近隣の町内の民生委員に声を掛けると言っている。市内の相談支援専門員を集めて行っている相談支援専門員連絡会の勉強会で、シンポジウムの報告を行い、サービス等利用計画のなかに地域支援、「共助」=インフォーマルサービスについてどのように位置づけるか研修を行うとともに、インフォーマルサービスをどのように作っていくかを考えていきたい。作るためには相談支援専門員が自ら地域住民に積極的に働きかけていくことが必要である。